



緑萌ゆ

新宮小・中学校長だより 2021.10.11

祝 ノーベル物理学賞受賞 真鍋淑郎さん

突然のビックニュースが舞い込んできました。世界で最も有名で、最も権威のあるノーベル賞に、新宮小学校出身の真鍋淑郎さん（あえて博士ではなく親しみを込めて「さん」とさせていただきます）が選ばれたニュースは、新宮のみならず、四国中央市、愛媛県、日本を明るく元気にしてくれるニュースでした。

真鍋さんは、新宮小学校の前身である新宮尋常高等小学校を昭和19年3月に卒業されました。私は、勉強不足で知らなかったのですが、戦後（1947年）に学制改革がされる以前は、義務教育は尋常小学校（4年制）までで、その上に高等小学校（2年制）、旧制中学（現在の高等学校、5年制のことが多かった）があったようです。時代と共に変化があり、ましてやまさに戦争をはさんでいますので、真鍋さんが学ばれていた時がそうだったかどうかは正確には私にはわかりません。報道にあるように、新宮尋常高等小学校、三島中学（現在の三島高等学校）、東京大学、東京大学大学院と進まれて、すぐアメリカにわたって現在に至っているということです。高等小学校を現在の中学校と捉えれば、まさに新宮小・中学校の大先輩となります。

子どもたちにも話しましたが、卒業生にノーベル賞受賞者がいるというのは本当にすごいことです。調べますと、ノーベル賞は1901年から始まっていますので、120年の歴史があります。その長い歴史の中で、これまでに日本人（日本出身）でノーベル賞を受賞したのはたった27人だけです。真鍋さんが28人目になります。つまり、卒業生に受賞者がいる小学校は全国約2万校の内、たった28校だけということになります。本当に誇らしいことです。

真鍋さんの業績は多岐にわたり、一言ではまとめられませんが、二酸化炭素の排出が地球温暖化に影響を与えるという、今では常識になったことを初めて解明した方です。受賞した物理学賞は、これまで宇宙や素粒子等の分野の受賞が中心で、気候の分野での受賞は初めてでした。気象学者の方自身の「自分たちの学問がノーベル賞の対象になるとは思っていなかった」というコメントが紹介されていました。気象学の分野に初めて物理学の考え方をういたのが真鍋さんです。まさに、パイオニア（開拓者）、時代を切り拓いていった方ということです。ノーベル賞選考委員会のコメントでも、今回の選考結果は、今まさに地球温暖化防止に全世界が一致して取り組まなくてはいけないというメッセージを込めていることを認めていました。その地球温暖化の問題に、世界に先駆けて研究を行い、進めてきた方が、本校の卒業生、子どもたちの先輩であることに、誇らしい気持ちを抑えることができません。

真鍋さんは、お話の中で「好奇心」という言葉を何度も使われています。好奇心を持って物事にあたり、その先を見つめ探求していく。「やればやるほど興味が尽きない」と90歳の今でも探求心旺盛なさまは、尊敬の二文字しか思いつきません。そして、その姿は、大学との連携や様々な体験活動の中から興味関心を持ち、自分の夢や目標を見つけ、少人数を生かして伸ばしていくという本校の教育とリンクしていることに感動すら覚えました。本校の取組を後押ししてくださる受賞であり、目標となる受賞であったと感じます。今回の受賞を、本校の宝物として、これからも教職員一丸となって、新宮小・中学校の子どもたちを育てていきたいと思えます。

本当に、ノーベル物理学賞の受賞、おめでとうございます。